

第 6 回県立高等学校の在り方検討委員会のご意見等の概要

○ご意見等

魅力化・ 特色化	<ul style="list-style-type: none"> 学校だけの枠組みで学食や寮の防犯等をまかなうことは大変だと思う。学校の枠組みを越えた市町村単位での取組も必要である。
	<ul style="list-style-type: none"> 高知県や市町村に残った場合、自治体が奨学金の一部を返済できるという仕組みをつくると、より一層高知県に人が残るのではないか。
	<ul style="list-style-type: none"> 高知追手前高校等の普通科は進学校であるが、入学者が少ない。清水高校の学科改編も踏まえ、高知追手前高校等の学校をどうしていくのか心配である。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校ごとに特色を明確にする必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> デジタルのような高度化されたものを用いて、地元企業と授業をするのは、大きな魅力である。専門学科の特色を出すうえでは、地元企業を活用しながら進めていくことができるとよい。
	<ul style="list-style-type: none"> 大規模にハイテクを使う農業事業者も多く、農業高校と連携し、最新の産業がどうなっているのかを見る機会や、どのような人材が欲しいのかを聞く機会が必要である。
	<ul style="list-style-type: none"> 中学校との連携は、下の学年と連続性を持たせ、学びをシームレスにしていくと魅力になると思う。高校と中学校が併設になっている場合はやりやすいが、地元の中学校との連携は、それぞれの立ち位置が違い難しいところもある。
	<ul style="list-style-type: none"> 外国からの留学生が日本の教育を受けて、日本人と同じ感覚で物事の対応ができる人材を増やすことは、地域にとって資産になる。誰に対しての魅力なのかで定義が異なり、どのように捉えていくかは大事だと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> 中学生は産業系高校への期待が高く、最先端の内容を学ぶことが魅力だと感じている。
	<ul style="list-style-type: none"> 定時制、通信制という名前は、全日制とは違う昔からのイメージが変わっていない。インターネットハイスクールやデジタルハイスクールなどの名前の方が違和感のようなものがない。
	<ul style="list-style-type: none"> 分校の名前は、今の時代にそぐわないので、明るいイメージの名前に変えていけばよい。
	<ul style="list-style-type: none"> ICTを使ったオンラインの通信制にするのであれば、先進的な学校の在り方を感じられる名前にするのは、重要な魅力化であると思う。
入試制度	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちにとってよりよい入試制度とは何かを考えたときに、子どもの意見を聞く必要があると思う。
	<ul style="list-style-type: none"> 何を学びたいかが明確になったうえで学校選びができる入試を行うことが一番だと思う。現在の学力観が変わってきている中で、魅力化・特色化を踏まえた選抜については、何らかの形で入試制度の中に入れていかなければならないと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に必要な知識、一定の基準に達しているかを見る必要がある。そのうえで、魅力化・特色化にあわせた入試になると思うため、基本のところを評価できる入試が必要である。
	<ul style="list-style-type: none"> 入試制度はシンプルにいった方がよい。難しくなり過ぎると保護者も分かりづらい。